

「この人 72」

八洲忙閑 73 歳 千葉県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

八 洲 八年前に脳梗塞で入院し、それまでの不摂生を猛省。細君の奨めもあって、ギャンブルなどを一切やめて、俳句に取り組むことになりました。四年前から始め、「俳壇」の〈微苦笑俳壇〉で佳作、秀逸に選ばれ、滑稽俳句協会や八木会長の存在を知って入会し、すっかり滑稽俳句の魅力に取りつかれるようになりました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

八 洲 「味のある」文体などと言いますが、「味」の付く言葉の代表として、「俳諧味」「滑稽味」がありますね。それに味をしめ、滑稽俳句を詠むことで、愉悦感を覚えますね。

編集部 俳句における滑稽とは？

八 洲 「味」「み」の付く言葉は、滑稽俳句の核心をなすものと思います。うまみ、おかしみ、面白み、軽み、滑稽味、けれん味、新鮮味、新味、醍醐味、巧み、楽しみ、人間味、人情味、俳諧味、弾み、風味、深み、微笑み、妙味などです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

八 洲 たとい、駄じゃれ、親父ギャグ、パロディー、あてこすり、ジョークの類であっても、その滑稽味が世の潤滑油になれば、人生ユカイ。「ひらめき」から出る言葉を大切にすることですね。

【代表句】

急峻に膝のがくんと山笑ふ
夏めきて色めくミニの膝小僧
混浴の堂々足湯涼新た
悴みて乾布摩擦の肌いちめ
おお雲雀声は天より地上より